

<発表資料>

- 社史・アーカイブ総合研究所 -

「サイド企画」で深みを加える その1

創業から今日までを網羅した正史以外の構成要素もあると、会社の姿を多面的に浮き彫りにして、社史に深みを加えることができます。「サイド企画」とも言える社史の構成要素を、囲みに示したように7つの例でご紹介します。

1.は外部の方を招いて、会社の将来展望などについて語り合う企画です。業界の研究者やジャーナリスト、産業界の著名人などの場合は、専門的な知識を持っているので、具体的で突っ込んだ話を期待できます。女性のテレビキャスターなどの場合は、どちらかという社長のお話の引き出し役になることが多いようです。

社史のサイド企画

1. 記念対談
2. 社員座談会
3. 社員アンケート
4. OB・取引先コラム
5. 分冊方式
6. 漫画を取り入れる
7. 感想文募集

2.では、次世代を担う若手社員を何人か選んで、社長との座談会を行う方法があります。日頃、経営にあまり参画できない世代を登場させ、自由闊達に話してもらうことで、会社の「風通しの良さ」をアピールすることができます。また、社史に対して普段は消極的な若い世代に関心を持ってもらえる頁を作ることができます。

若い世代が将来のことを自由に話し合い、社長と幹部が次世代に語り継ぎたい会社の歴史・財産について語り合うという構成でも、社史の本来の目的を補完する内容になるでしょう。

3.は多くの社員の考えを誌面に反映させる手法です。社員アンケートの結果を1人ずつ掲載する方法と、グラフや表に結果を集約して掲載する方法があります。掲載方法によって質問項目は大幅に変わってきます。こういうアンケート頁は多少遊びの要素があってもいいでしょう。

次回は4.以下について見てみましょう。

(本資料使用上の留意点について)

本資料は当社が独自に収集したデータを基に作成しております。その正確性と最新性の確保に努めていますが、完全性を保証するものではありません。調査、分析、統計処理等によってその都度データを更新する場合があります。当資料の内容に関するいかなる間違い、不掲載についても一切の責任を負うものではありません。資料に示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。利用に際しては御自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。その他、当資料の取り扱い事項は当研究所の会員規約に準じます。

(著作権について)

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。
当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

- 組織情報 -



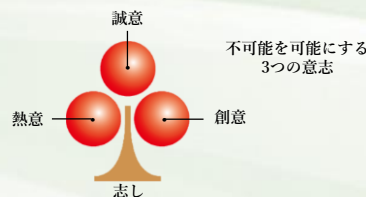
ビジネスのDNAを次世代に伝える
出版文化社

【代表者】
代表取締役社長 浅田厚志
【創立】
1984年2月6日
【資本金】
99,234,300円

【東京本部】
東京都中央区新川1-8-8
アクロス新川ビル4F
TEL：03-6823-6820（代）
【大阪本部】
大阪市中央区久太郎町3丁目4-30
船場グランドビル8F
TEL：06-4704-4700（代）
【名古屋支社】
名古屋市熱田区五本松町7-30
熱田メディアウイング3F
TEL：052-990-9090（代）

Learning Organization

豊富な実績を基に多様な社史・記念誌づくりを提案します。
編集は自社内で一貫して行っています。
専門家＝アーキビストが常駐しています。
品質管理、情報セキュリティのISOを取得している日本唯一の出版社です



-社史とアーカイブに関する日本初、唯一のシンクタンク-



社史・アーカイブ総合研究所

CORPORATE HISTORIES AND ARCHIVES RESEARCH INSTITUTE

社史・アーカイブ総合研究所は『社史・記念誌の有効活用と、ビジネス・アーカイブの普及への貢献』という大きな目標を掲げ、2019年に設立した専門研究機関です。社史とビジネス・アーカイブに関する情報の収集、コンテンツの企画と発信を行っています。

運営組織 社史・アーカイブ総合研究所
英文 Corporate Histories and Archives Research Institute
代表者 小谷允志
設立 2019年10月1日
研究員数 10名（東京6名・大阪4名）